

表 5-28 社会的適合能力にかかわる項目（会話にならない・買い物・簡単な調理・自分勝手な行動・独り言・集団参加ができないの回答傾向）

		在宅タイムスタディ		モデル事業		P値
		N	%	N	%	
会話にならない	1 ない	332	71.9%	18,527	70.8%	
	2 まれにある	48	10.4%	2,210	8.4%	
	3 とくどきある	25	5.4%	2,351	9.0%	
	4 よくある	57	12.3%	3,090	11.8%	
買い物	1 できる	31	6.6%	11,672	45.4%	**
	2 見守り	13	2.8%	2,648	10.1%	
	3 一部介助	61	13.0%	5,127	19.6%	
	4 全介助	363	77.6%	6,531	24.9%	
簡単な調理	1 できる	30	6.4%	9,275	35.4%	**
	2 見守り	12	2.6%	1,651	6.3%	
	3 一部介助	54	11.5%	5,299	20.2%	
	4 全介助	372	79.5%	9,953	38.0%	
自分勝手な行動	1 ない	301	65.0%	19,279	73.6%	**
	2 まれにある	52	11.2%	1,772	6.8%	
	3 とくどきある	46	9.9%	2,041	7.8%	
	4 よくある	64	13.8%	3,086	11.8%	
意味の独り言等	1 ない	389	84.0%	22,849	87.3%	*
	2 まれにある	19	4.1%	858	3.3%	
	3 とくどきある	21	4.5%	930	3.6%	
	4 よくある	34	7.3%	1,541	5.9%	
集団参加ができない	1 ない	330	71.4%	17,500	66.9%	**
	2 まれにある	52	11.3%	1,589	6.1%	
	3 とくどきある	23	5.0%	1,714	6.5%	
	4 よくある	57	12.3%	5,375	20.5%	

\*\*P<0.01 \*P<0.05

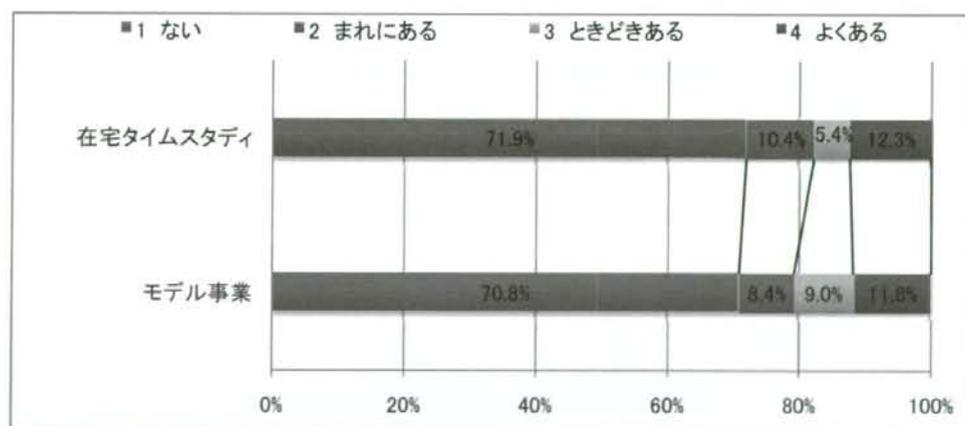


図 5-86 会話にならない

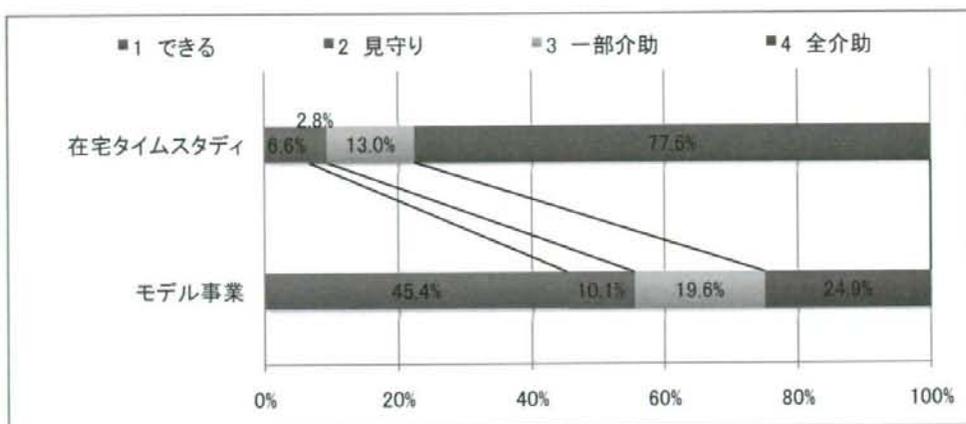


図 5-87 買い物

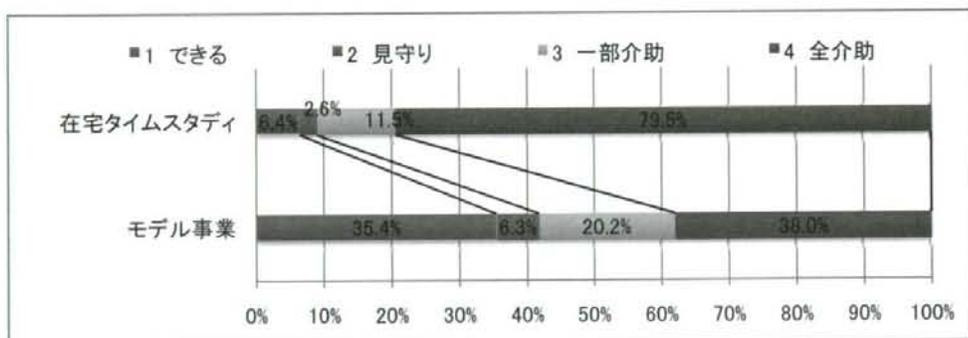


図 5-88 簡単な調理

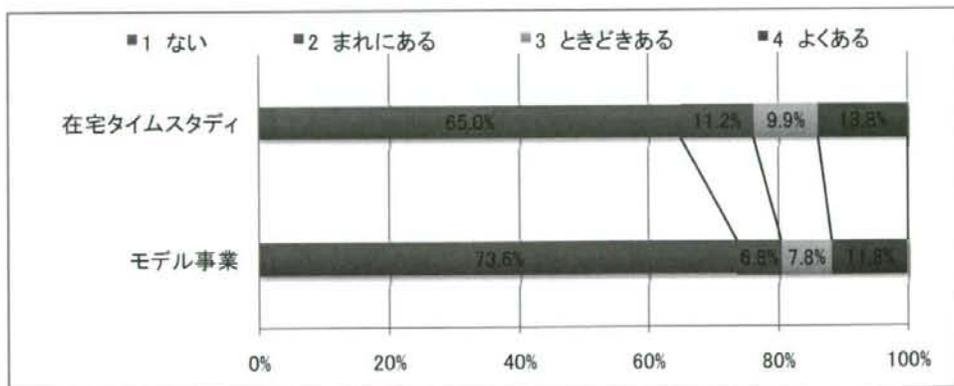


図 5-89 自分勝手な行動

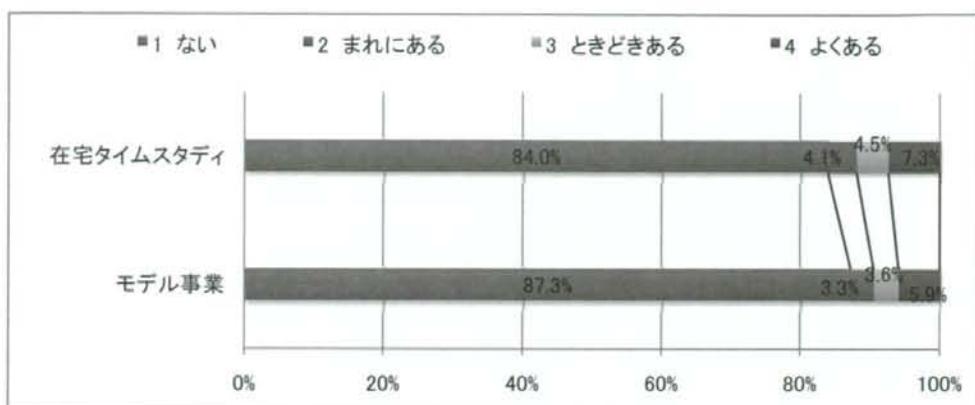


図 5-90 独り言等

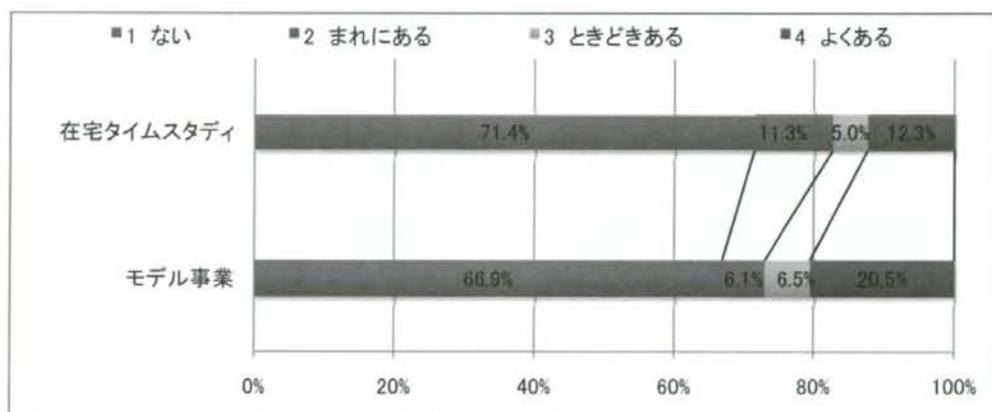


図 5-91 集団参加ができない

## 5. 介護保険サービス利用状況（モデル事業との比較）

### （1） サービス利用の有無

介護保険サービスの利用については、訪問介護（以下、表中において訪介とする。）、訪問入浴（以下、表中において訪入とする。）、訪問看護（以下、表中において訪看とする。）、訪問リハビリテーション（以下、表中において訪リとする。）、通所介護（以下、表中において通介とする。）、通所リハビリテーション（以下、表中において通りとする。）、福祉用具貸与（以下、表中において用具）の7種類について、サービスの利用状況を見た。

「サービス利用あり」と回答した割合は、在宅タイムスタディ調査の対象者においては、福祉用具貸与が73.2%と最も高く、次いで、通所介護52.3%、訪問介護36.1%、訪問看護33.3%と続いていた。いずれも30%を超えており、高い利用率であった。また、この集団は、訪問入浴が13.6%、訪問リハビリテーションが13.0%とかなり高い割合を示していた。

一方、モデル事業の調査対象となった高齢者群で最も高い利用割合を示したのは、通所介護で29.7%であった。次いで訪問介護が26.0%、福祉用具貸与17.1%、通所リハビリテーション11.3%と有意に低かった。とくに訪問入浴は1.2%、訪問リハビリテーションは1.7%と示され、これは在宅のタイムスタディ調査の対象群よりもかなり低い割合を示していた。

以上の結果から、本調査の対象となった在宅の要介護高齢者群は、かなり多くの介護保険サービスを利用しており、全国のいわゆる標準的な要介護高齢者に比較すると、訪問入浴や訪問リハといった利用率が低いサービスをうまく利用している群であり、介護保険サービスのマネジメントがなされている群であることがわかった。

表 5-29 サービス利用ありと回答した割合

	在宅タイムスタディ (%)	モデル事業 (%)
訪介	36.1%	26.0%
訪入	13.6%	1.2%
訪看	33.3%	4.0%
訪リ	13.0%	1.7%
通介	52.3%	29.7%
通り	26.0%	11.3%
用具	73.2%	17.1%

## (2) サービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせでもっとも多い組み合わせは、通所介護と福祉用具貸与の2種類で、16.2%がこの組み合わせとなっていた。同様に、通所リハと福祉用具貸与の割合が7.9%、訪問介護と福祉用具貸与が5.1%と上位については、何らかの介護保険サービスと福祉用具貸与の組み合わせというのが多かった。

訪問介護、訪問入浴、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所介護、通所リハビリテーション、福祉用具の7種類のサービスを組み合わせていたものが、4.7%を占めており、複雑な組み合わせのサービスを受けている高齢者も少なくなかった。

このように在宅タイムスタディ調査の対象となった群は、表 5-31 に示したモデル事業の調査対象者のように、比較的上位の組み合わせとして、通所介護 17.3%、訪問介護 12.6%、通所リハビリテーション 5.7、福祉用具貸与 3.5%というように、単一の介護保険サービスではなく、複数の介護保険サービスの組み合わせが提供され、しかもその割合が極めて高いことが特徴であった。

表 5-30 在宅タイムスタディ調査対象者におけるサービス利用組み合わせ (N=493)

利用数	サービス種別	N	%
2	通介、用具	80	16.2
1	通介	52	10.5
2	通り、用具	39	7.9
2	訪介、用具	25	5.1
7	訪介、訪入、訪看、訪リ、通介、通り、用具	23	4.7
1	通り	20	4.1
3	訪看、通介、用具	19	3.9
3	訪介、通介、用具	17	3.4
2	訪入、用具	15	3.0
3	訪介、訪看、用具	14	2.8
1	訪介	13	2.6
4	訪介、訪看、通介、用具	13	2.6
4	訪介、訪入、訪看、用具	13	2.6
1	用具	12	2.4
3	通介、通り、用具	12	2.4
2	訪介、通介	12	2.4
3	訪介、通り、用具	11	2.2
3	訪入、訪看、用具	10	2.0
1	訪看	8	1.6

3	訪看、通り、用具	7	1.4
3	訪り、通介、用具	6	1.2
2	訪介、訪看	6	1.2
5	訪介、訪入、訪看、訪り、用具	6	1.2
3	訪看、訪り、用具	5	1.0
2	訪入、用具	5	1.0

表 5-31 モデル事業調査対象者におけるサービス利用組み合わせ(N=27,605)

利用数	サービス種別	N	%
1	通介	4776	17.3
1	訪介	3471	12.6
1	通り	1568	5.7
2	訪介、通介	1285	4.7
2	通介、用具	974	3.5
1	用具	959	3.5
2	訪介、用具	657	2.4
2	通り、用具	484	1.8
3	訪介、通介、用具	417	1.5
2	訪介、通り	370	1.3
2	訪介、訪看	163	0.6
2	通介、通り	160	0.6
3	訪介、通り、用具	158	0.6
1	訪看	137	0.5
3	訪介、訪看、用具	120	0.4
3	通介、通り、用具	117	0.4
2	訪看、用具	117	0.4
3	訪看、通介、用具	77	0.3
1	訪り	68	0.2
4	訪介、訪看、通介、用具	62	0.2
2	訪看、通介	56	0.2
3	訪介、訪看、通介	56	0.2
2	訪入、用具	53	0.2
3	訪介、訪入、用具	53	0.2

\*サービス利用なしは除く（全体の 38.0%）

### (3) サービス利用回数

サービスの利用回数の月平均について、在宅タイムスタディ調査の対象となった群とモデル事業の対象となった群を比較した。この結果、在宅タイムスタディ調査の対象となった群のすべてのサービスにおいて、有意に多い回数を示していた。

表 5-32 在宅タイムスタディとモデル事業のサービス利用回数の月平均比較

		N	最小値	最大値	平均値	標準偏差	P 値
訪介	在宅タイムスタディ	152	0	120	17.4	21.1	**
	モデル事業	14547	0	104	4.5	11.6	
訪入	在宅タイムスタディ	61	0	32	4.8	4.7	**
	モデル事業	14547	0	13	0.1	0.8	
訪看	在宅タイムスタディ	147	0	48	7.4	7.2	**
	モデル事業	14547	0	31	0.3	1.6	
訪り	在宅タイムスタディ	57	0	24	3.9	4.2	**
	モデル事業	14547	0	25	0.1	1.0	
通介	在宅タイムスタディ	231	0	64	10.3	8.1	**
	モデル事業	14547	0	92	3.2	5.3	
通り	在宅タイムスタディ	106	0	68	8.5	9.1	**
	モデル事業	14547	0	29	1.2	3.4	
用具	在宅タイムスタディ	331	4	8	5.0	1.7	**
	モデル事業	14547	0	84	0.6	1.4	

\*\* P<0.01 \* P<0.05

\*分析にあたっては、要支援の判定を受けたものは除外した。

## 第6章 要介護度区別在宅タイムスタディ対象高齢者の属性の特徴

本章では、調査対象となった高齢者群を要支援1、要支援2、要介護1を「軽度群」、要介護2、要介護3を「中度群」、要介護4、要介護5を「重度群」と要介護度区別に3群に分け、群別の属性の相違について分析した。

### 1. 要介護度区別割合

在宅タイムスタディ調査の対象となった群は、軽度群が26.1%、中度群が39.1%、重度群が34.8%となった。

表 6-1 要介護度区別高齢者の割合

	N	%
軽度	123	26.1
中度	184	39.1
重度	164	34.8
合計	471	100.0

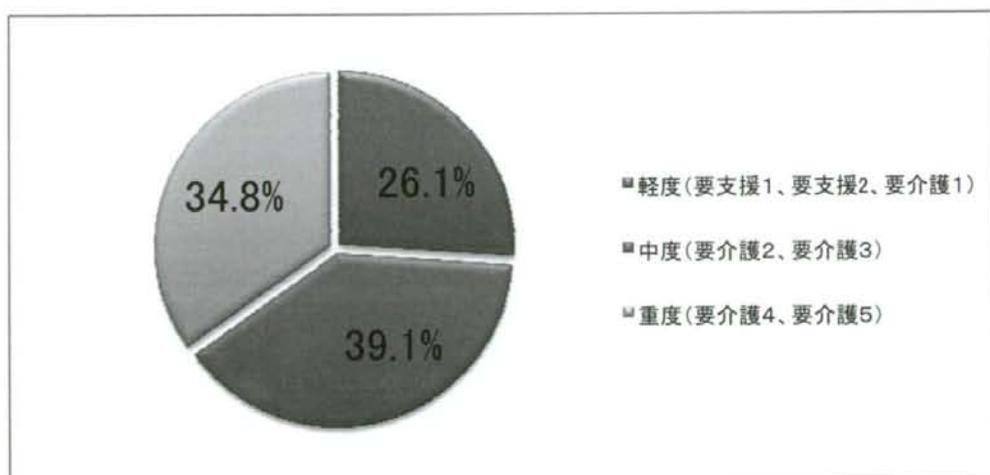


図 6-1 要介護度区別高齢者の割合

### 2. 性別

軽度、中度、重度の性別の分布は、それぞれの群において男性30%台、女性60%台であり、各群間に性別による統計的な有意差はみられなかった。

表 6-2 要介護度区分別性別の割合

	男性		女性		合計	
	N	%	N	%	N	%
軽度	42	34.4	80	65.6	122	100
中度	69	37.9	113	62.1	182	100
重度	60	37.0	102	63.0	162	100
合計	171	36.7	295	63.3	466	100

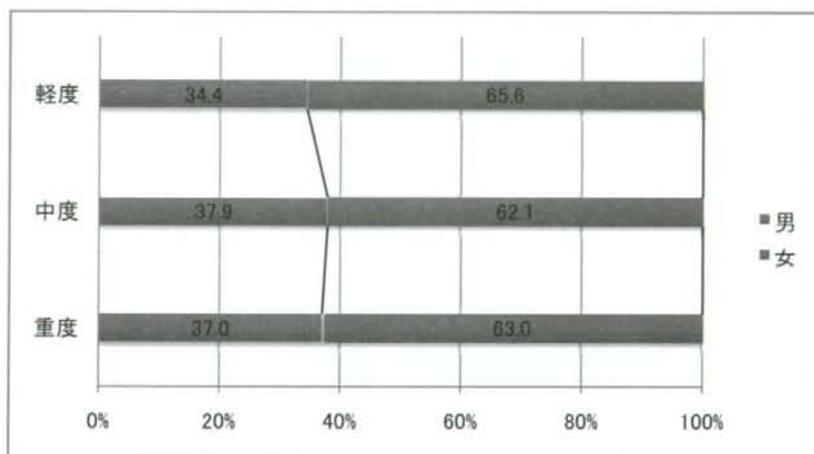


図 6-2 要介護度区分別性別の割合

### 3. 年齢

軽度、中度、重度の要介護度区分別の平均年齢は、それぞれ 82.5 歳、81.2 歳、80.9 歳とすべて 80 歳を超えていた。各群間に統計的な有意差は、示されなかった。

表 6-3 要介護度区分別年齢

	N	最小値	最大値	平均値	標準偏差	P 値
軽度	120	52	100	82.5	8.58	軽度⇔中度
中度	182	48	98	81.2	9.23	中度⇔重度
重度	156	44	100	80.9	11.27	軽度⇔重度

### 4. 要介護度の変動

一次判定からの要介護度の変動は、軽度は、「変動なし」が 91.3%と 9 割を超えており、上昇したものはなかった。中度は、「変動なし」は 73.2%であり、「一段階上昇した」が

23.9%であった。重度においては、「変動なし」は 88.5%であった。変更が一番多く見られたのは中度であり、軽度群は上昇した変更は、ほとんどなかった。

表 6-4 要介護度区分別 要介護度の変動

	2段階以上上昇		1段階上昇		変動なし		1段階下降	
	N	%	N	%	N	%	N	%
軽度	0	0.0	0	0.0	42	91.3	4	8.7
中度	1	1.4	17	23.9	52	73.2	1	1.4
重度	2	2.6	5	6.4	69	88.5	2	2.6
合計	3	1.5	22	11.3	163	83.6	7	3.6

## 5. 認定項目の回答傾向

### (1) BPSD 関連の調査項目の回答傾向

#### 1) BPSD 関連項目

##### ① 有意差がある項目

BPSD 関連項目のうち、要介護度区分別に有意差が示された項目は、表 6-5 のようになった。軽度、中度、重度の 3 群間のすべての群間にいずれも有意な差が示された項目は、「意思決定できない」、「安全判断できない」、「損得判断できない」であった。これらは、要介護度が高くなるにしたがって、判断が困難になる項目と考えられた。

また、軽度と中度の間でのみ有意差があったのは、「同時に 2 つができない」、「集団参加ができない」、「不安定」、「感覚刺激に敏感」、「多動」、「無断借用」であった。中度の段階で、症状が示される項目といえる。

軽度と中度、中度と重度に有意差があった項目として、「曖昧さへの対応不可」、「過剰な心配」、「情緒不安定」、「途中で投げ出す」、「閉じこもり」が示された。さらに、軽度と中度、軽度と重度に有意差があった項目として、「比喩を理解できない」、「孤独を嫌がる」、「停止」、「日常動作に要時間」が示されたが、これらの項目はいずれも軽度群とその他の群に有意差があった項目であり、軽度群にはあまり発現しない、言い換えるならば中度および重度に発現する確率が高い項目であることが推察された。

さらに、中度と重度、軽度と重度に有意差があった項目として、「独自の意思表示」、「言葉以外の説明理解」、「一人で勝手に外出」、「高い自己評価」、「知覚鈍磨」、「外出できない」、「自虐」が示された。中度と重度間でのみ有意差があった項目は、「昼間の閉じこもり」、「戸締りを忘れる」、「夜中の目覚め」、「悲観的」、「人の言いなりになる」、「疑い深い」であり、軽度と重度の間でのみは、「意味のない独り言等」、「破壊」であった。

これらの項目は、重度群とその他の群に有意差があった項目であり、重度群に発現する確率が高い項目であることが推察された。

以上の結果からは、BPSD 関連の 34 項目には、何らかの有意な差があることが示された。

表 6-5 要介護度区別に有意差があった BPSD 関連項目の「ある」、「できない」の割合

		要介護度区分						P値		
		軽度		中度		重度		軽度⇔中度	中度⇔重度	軽度⇔重度
		N	%	N	%	N	%			
意思決定できない	ある	50	41.3%	101	55.2%	118	72.5%	**	**	**
安全判断できない	ある	33	27.0%	102	55.7%	105	65.2%	**	**	**
損得判断できない	ある	30	25.0%	77	42.1%	90	55.9%	**	**	**
同時に2つができない	ある	68	55.7%	121	66.1%	82	52.8%	*		
集団参加ができない	ある	24	19.7%	64	35.2%	44	27.8%	**		
不安定	ある	20	16.4%	49	26.9%	32	19.8%	*		
感覚刺激に敏感	ある	13	10.7%	34	18.7%	30	18.8%	*		
多動	ある	8	6.6%	30	16.4%	15	9.3%	*		
無断借用	ある	5	4.1%	19	10.4%	8	4.9%	*		
曖昧さへの対応不可	ある	52	42.6%	101	55.2%	64	40.5%	*	*	
過剰な心配	ある	46	37.7%	96	52.5%	55	34.6%	*	**	
情緒不安定	ある	39	32.0%	85	46.4%	52	32.7%	**	*	
途中で投げ出す	ある	34	27.9%	74	40.4%	40	25.2%	*	*	
閉じこもり	ある	36	29.5%	75	41.2%	35	22.3%	*	**	
仕度を理解できない	ある	45	37.2%	96	53.3%	74	46.8%	**		*
孤独を感じる	ある	22	18.0%	52	28.4%	54	34.0%	*		**
停止	ある	6	4.9%	31	16.9%	29	18.0%	**		**
日常動作に要時間	ある	4	3.3%	27	14.8%	15	9.3%	**		*
独自の意思表示	できない	11	9.0%	24	13.1%	73	45.3%		**	**
言葉以外の説明理解	できない	10	8.2%	27	14.9%	60	37.3%		**	**
一人で勝手に外出	ある	23	18.9%	35	19.2%	10	6.3%		**	**
高い自己評価	ある	21	17.2%	31	16.9%	14	8.9%	*	*	
知覚鈍麻	ある	9	7.4%	18	9.8%	37	23.1%		**	**
外出できない	ある	19	15.6%	29	15.8%	12	7.5%	*	*	
自虐	ある	0	0.0%	1	0.5%	6	3.7%	*	*	
昼間の閉じこもり	ある	40	32.8%	67	36.8%	42	26.4%	*		
戸締りを忘れる	ある	41	33.6%	71	39.2%	33	21.3%		**	
夜中の目覚め	3回以上ある	31	25.6%	65	35.9%	46	28.6%	*		
意図的	ある	33	27.0%	57	31.1%	31	19.1%		**	
人の言いなりになる	ある	28	23.0%	42	23.0%	23	14.5%	*		
疑い深い	ある	22	18.0%	40	21.9%	21	13.4%	*		
意味の独り言等	ある	11	9.0%	27	14.9%	36	22.5%			**
破壊	ある	2	1.6%	10	5.5%	14	8.6%			*

## ② 有意差がない項目

BPSD 関連項目のうち、要介護度区別に有意差がなかった項目としては以下の表 6-6 のようになった。

BPSD があるとされた回答が多い順にみると、「自分勝手な行動」、「悲観的な言動」、「唐突な言動・行動」、「誤解して行動」であり、これらの行動の変容と過多に関する BPSD は、段階的に発現するものでなく、どの群においても 3 割程度発生する行動として示されていた。

続いて、「強いこだわり」、「会話にならない」、「手順を変えられない」、「気持の切替ができない」といった精神的な不安や焦燥に関する BPSD も同様に 2 割から 3 割程度発生していたが、これは、要介護度ではなく、個性に依拠する行為として調査の判定がなされた可能性が示された。

「過食等」、「普段に無い声」、「気を引くトラブル」、「自殺をほめかす」、「性的な BPSD」、「突発的行動」、「突然抱きつく」といった BPSD は、今回の調査対象高齢群において、ほとんど発現しておらず、いわゆる要介護高齢者の調査項目としては、弁別性がない項目となっていた。

表 6-6 要介護度区分別 BPSD 関連項目のうち有意差がなかった項目の「ある」の割合

		要介護度区分						P値		
		軽度		中度		重度		軽度⇔中度	中度⇔重度	軽度⇔重度
		N	%	N	%	N	%			
自分勝手な行動	ある	40	32.8%	73	40.1%	49	30.8%			
悲観的な言動	ある	37	30.3%	70	38.3%	46	28.9%			
唐突な言動・行動	ある	35	28.7%	69	37.7%	46	28.9%			
誤解して行動	ある	35	28.7%	57	31.3%	50	31.8%			
強いこだわり	ある	35	28.9%	58	31.9%	39	24.1%			
金話にならない	ある	31	25.6%	58	31.9%	41	25.8%			
手順を変えられない	ある	30	24.6%	53	29.1%	35	21.9%			
気持の切替ができない	ある	27	22.1%	51	27.9%	34	21.4%			
過食等	ある	8	6.6%	16	8.7%	9	5.6%			
普段に無い声	ある	7	5.7%	11	6.0%	12	7.4%			
気を引くトラブル	ある	5	4.1%	13	7.1%	11	6.9%			
自殺をほのめかず	ある	6	4.9%	15	8.2%	7	4.4%			
性的なBPSD	ある	0	0.0%	4	2.2%	3	1.9%			
突発的行為	ある	0	0.0%	2	1.1%	3	1.9%			
突然抱きつく	ある	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%			

## 2) 日常生活等関連

### ① 有意差がある項目

日常生活等関連項目において有意差が示された項目は、いずれも軽度、中度、重度の3群間のすべてにおいて有意差が示された。介助ありと回答された割合の多い順に見ていくと、軽度群において80%介助ありと回答されたのは、「手の込んだ調理」、「入浴の準備等」、「掃除（整理整頓を含む）」、「掃除」、「調理」であった。

続いて、70%が介助ありと示されたのは、「交通手段の利用」、「洗濯と乾燥」、「洗濯」、「簡単な調理」、「食事の後片付けと洗浄」、「買い物」、「ゴミ捨て」、「配膳・下膳」、「寝具の準備等」であった。さらに、50%以下が介助ありとされたのは、「身の回りの整理整頓」、「薬の管理」、「日常の金銭管理」、「情報機器」、「家庭器具の使用」、「文字の視覚的認識」であった。

一方、重度群においては、「文字の視覚的認識」を除き、介助ありの回答が90%以上であり、重度群においては、介助が必要な内容が示されていることがわかった。

表 6-7 要介護度区分別 日常生活等関連項目のうち有意差がある項目

		要介護度区分						P値		
		軽度		中度		重度		軽度⇔中度	中度⇔重度	軽度⇔重度
		N	%	N	%	N	%			
手の込んだ調理	介助あり	109	89.3%	184	100.0%	162	100.0%	**	**	**
入浴の準備等	介助あり	102	83.6%	180	97.8%	162	100.0%	**	**	**
掃除(整理整頓を含む)	介助あり	103	84.4%	178	97.3%	162	100.0%	**	**	**
掃除	介助あり	103	84.4%	178	96.7%	161	99.4%	**	**	**
調理	介助あり	101	82.8%	177	96.7%	160	98.8%	**	**	**
交通手段の利用	介助あり	95	77.9%	178	97.3%	162	100.0%	**	**	**
洗濯と乾燥	介助あり	92	75.4%	178	97.3%	162	100.0%	**	**	**
洗濯	介助あり	91	74.6%	179	97.3%	161	99.4%	**	**	**
簡単な調理	介助あり	90	73.8%	176	95.7%	160	98.8%	**	**	**
食事の後片付けと洗浄	介助あり	88	72.1%	176	95.7%	161	99.4%	**	**	**
買い物	介助あり	86	70.5%	176	95.7%	162	100.0%	**	**	**
ゴミ捨て	介助あり	91	74.6%	170	93.4%	162	100.0%	**	**	**
配膳・下膳	介助あり	88	72.1%	173	94.0%	160	99.4%	**	**	**
道具の準備等	介助あり	86	70.5%	172	94.5%	159	98.8%	**	**	**
身の回りの整理整頓	介助あり	72	59.0%	168	91.8%	156	97.5%	**	**	**
薬の管理	介助あり	74	60.7%	144	78.7%	157	96.9%	**	**	**
日常の金銭管理	介助あり	66	54.1%	146	79.8%	157	96.9%	**	**	**
情報機器	介助あり	73	59.8%	141	77.9%	155	95.7%	**	**	**
家庭器具の使用	介助あり	34	27.9%	114	62.3%	146	90.7%	**	**	**
文字の視覚的認識	介助あり	21	17.2%	47	25.7%	98	60.9%	**	**	**

### 3) 社会生活等関連

#### ① 有意差がある項目

社会生活関連では、社会生活に関連して多様な項目を調査していたが、軽度、中度、重度のいずれの群間においても有意な差があった項目で、軽度群においても、「できない」あるいは、「介助がある」と回答された割合が50%以上だった項目は、「洗濯」、「就職活動」、「一人での外出」、「何もしていない(日中の過ごし方)」、「職の持続」、「バランスの取れた食事」、「課題遂行の準備(日常生活)」、「貴重品管理」であった。

これらの項目は、要介護度別に回答傾向に相違があり、軽度群において、「できない」もしくは、「介助が必要」な割合が高い項目であった。

軽度群において、「できない」あるいは、「介助あり」と回答された割合が50%以下だった項目は、「郵便物や宅配便の処理」、「毎日の移動範囲」、「課題に合わせて自決(日常生活)」、「余暇時間を楽しむ」、「選挙での投票」、「独力のストレス解消」、「季節や状況にあった衣服選択」、「交友関係の維持」であった。これらの項目は、重度群においては、80%以上が「できない」あるいは、「介助が必要」と回答された項目であった。

軽度群において、「できない」あるいは、「介助あり」と回答された割合が50%以下で、かつ重度群においても80%以下の回答が示された項目は、「医療関係者(訪問者)」、「髭剃り」、「今の時間を理解」、「課題遂行の準備(作業場面)」、「助けを求める」、「文字の読み書き」、「課題に合わせて自決(作業場面)」、「指示された日時の通院」であった。

これら項目は、各群に有意差があったが、いずれの群においても、「できない」あるいは「介助が必要」な割合が低い傾向が示された。また、軽度と中度、中度と重度のみ有意差がみられたのは、「通所・通院(日中の過ごし方)」、「補装具」と示された。

軽度と重度の間のみで有意差がみられたのは、「趣味(日中の過ごし方)」、「単身生活(生

活の状況)、「テレビ(日中の過ごし方)」、「近隣の住民(日中の過ごし方)」、「家族と同居(生活の状況)」であった。これらの項目は、軽度群とその他の群に有意差が示された項目であり、これら補装具の有無、日中の過ごし方、生活の状況については軽度群とその他においては、相違があるものの、段階的な違いはないことを示していた。

中度と重度、軽度と重度の間に有意差がみられた項目は、「余暇(外出の理由)」、「昼寝」、「たんの吸引」、「片方の手を胸元へ」、「福祉サービス職員(訪問者)」、「福祉施設(外出の理由)」、「11以上の数を数える」、「外出しない(外出の理由)」、「福祉施設職員(訪問者)」であった。軽度と中度には、有意な差が示されていないことから、段階的に悪化するような能力を反映していない項目であると推察された。

「毎日の買物(外出の理由)」、「外出(日中の過ごし方)」については、軽度と重度にのみ有意差が示された。これらの項目は、重度とその他の群の間の回答傾向に有意差があった項目であり、福祉施設との関わりや外出の頻度かわかる項目、およびたんの吸引や手を胸元へといった医療処置やADLに関する項目においては、重度群がその他の群に比較して、大きく異なる傾向があることが示された。

また、睡眠障害の発現のメルクマールと考えられている「昼寝の有無」は、軽度と中度、中度と重度群間に有意差が示された。昼寝の有無が、要介護との関連がある可能性を示しており、重要である。

表 6-8 要介護度区分別社会生活関連項目のうち有意差がある項目

		要介護度区分						P値		
		軽度		中度		重度		軽度⇔中度	中度⇔重度	軽度⇔重度
		N	%	N	%	N	%			
洗髪	介助あり	90	73.8%	176	95.7%	160	98.8%	**	**	**
就寝活動	できない	94	77.7%	158	89.3%	156	98.1%	**	**	**
一人での外出	できない	71	59.2%	173	94.5%	160	98.8%	**	*	**
何もしていない(日中の過ごし方)	介助あり	80	65.6%	154	84.2%	150	93.2%	**	**	**
靴の持続	できない	80	66.7%	147	83.1%	150	94.3%	**	**	**
バランスの取れた食事	介助あり	76	62.3%	146	80.2%	154	95.1%	**	**	**
課題遂行の準備(日常生活)	介助あり	68	56.2%	144	79.6%	147	92.5%	**	**	**
貴重品管理	介助あり	62	50.8%	131	72.0%	156	96.9%	**	**	**
郵便物や宅配便の処理	できない	54	44.3%	128	70.3%	149	92.0%	**	**	**
毎日の移動範囲	居宅内	51	41.8%	123	67.6%	141	87.6%	**	**	**
課題に合わせて自決(日常生活)	介助あり	56	47.9%	120	66.7%	136	85.5%	**	**	**
余暇時間を楽しむ	介助あり	46	37.7%	114	62.6%	147	91.3%	**	**	**
選挙での投票	できない	45	37.2%	120	66.3%	132	82.5%	**	**	**
独力のストレス解消	介助あり	40	33.1%	104	56.8%	138	85.2%	**	**	**
季節や状況にあった衣服選択	できない	41	33.6%	95	52.2%	127	78.4%	**	**	**
交友関係の維持	できない	37	30.3%	91	50.0%	124	77.0%	**	**	**
医療関係者(訪問者)	なし	42	34.4%	84	45.9%	80	49.4%	**	**	**
監割り	介助あり	21	17.2%	47	25.7%	98	60.9%	**	**	**
今の時間を理解	できない	20	16.4%	53	29.0%	88	54.3%	*	**	**
課題遂行の準備(作業場面)	介助あり	42	35.0%	71	40.3%	94	21.8%	**	**	**
助けを求める	できない	17	13.9%	49	26.9%	80	49.4%	**	**	**
文字の読み書き	できない	8	6.6%	42	23.1%	92	56.8%	**	**	**
課題に合わせて自決(作業場面)	介助あり	36	30.0%	58	32.8%	31	19.9%	**	**	**
指示された日時の通院	介助あり	2	1.6%	6	3.3%	50	30.9%	**	**	**
通所・通院(日中の過ごし方)	あり	13	10.7%	41	22.4%	65	40.1%	**	*	*
補装具	つけている	10	8.2%	33	18.0%	13	8.0%	*	**	*
趣味(日中の過ごし方)	なし	118	96.7%	181	96.9%	162	100.0%	**		**
単身生活(生活の状況)	なし	107	87.7%	177	96.7%	160	98.8%	**		**
テレビ(日中の過ごし方)	なし	104	85.2%	173	94.5%	159	98.1%	*		*
近隣の住民(訪問者)	なし	61	53.5%	87	53.7%	99	66.0%	**		**
家族と同居(生活の状況)	なし	15	12.3%	6	3.3%	2	1.2%	**		**
余暇(外出の理由)	なし	115	95.0%	176	96.2%	162	100.0%	*	**	**
髪髪	介助あり	79	64.8%	164	89.6%	160	99.4%	**	**	**
たんの吸引	あり	96	78.7%	143	79.0%	148	92.5%	**	**	**
片方の手を腕元へ	介助あり	56	58.3%	131	81.4%	142	97.3%	**	**	**
福祉サービス職員(訪問者)	なし	93	82.3%	109	65.3%	35	22.7%	**	*	*
福祉施設(外出の理由)	なし	42	34.7%	67	36.6%	88	54.3%	**	**	**
11以上の数を数える	できない	13	10.7%	29	15.8%	76	46.9%	**	**	**
外出しない(外出の理由)	あり	8	5.0%	20	10.9%	57	35.2%	**	**	**
福祉施設職員(訪問者)	なし	16	13.7%	40	23.0%	23	14.6%	*	*	*
毎日の買物(外出の理由)	なし	111	91.7%	176	96.2%	158	97.5%			*
外出(日中の過ごし方)	なし	118	96.7%	158	86.3%	153	94.4%			*

## ② 有意差がない項目

社会生活関連で有意差がない項目としては、外出の理由として、「入所施設」、「入居施設」、「金融機関」、「役所」、「勤務先」、「医療機関」が示された。「医療機関」を除き、いずれもほぼないという回答であった。

訪問者とその頻度について調べる項目では、「非同居の家族」、「友人」が、日中の過ごし方として「読書」が示され、これらはいずれも発生率が低かった。

その他には、「1年前の状態との比較」、「インスリンの注射」、「てんかん発作」、「寝つき」、「生理の処置」といった項目が、有意差がない項目として示された。

「1年前の状態との比較」は4割から5割程度発生していたが、その他の項目については、問題となる行動及び介助がほぼ発生していなかった。

以上の項目については、要介護高齢者に対する調査項目としては、必ずしも適切な内容

とはいえないものと考えられた。

表 6-9 要介護度区分別社会生活等関連項目のうち有意差がない項目

		要介護度区分						P値		
		軽度		中度		重度		軽度⇔中度	中度⇔重度	軽度⇔重度
		N	%	N	%	N	%			
入所施設(外出の理由)	なし	122	100.0%	183	100.0%	162	100.0%			
入居施設(外出の理由)	なし	122	100.0%	183	100.0%	162	100.0%			
投所(外出の理由)	なし	121	100.0%	183	100.0%	162	100.0%			
金融機関(外出の理由)	なし	121	100.0%	181	98.9%	162	100.0%			
勤務先(外出の理由)	なし	120	99.2%	182	99.5%	162	100.0%			
読書(日中の過ごし方)	なし	117	95.9%	175	95.6%	157	96.9%			
医療機関(外出の理由)	なし	100	82.6%	144	78.7%	134	82.7%			
友人(訪問者)	ない	85	73.9%	130	76.9%	127	84.1%			
1年前の状態との比較	悪くなっている	56	45.9%	97	52.7%	71	44.4%			
非同居の家族(訪問者)	ない	38	32.8%	60	35.3%	60	39.0%			
寝つき	悪い	18	14.8%	37	20.3%	18	11.3%			
インスリンの注射	過去14日間に行われた	3	2.5%	9	5.0%	9	5.7%			
てんかん発作	ある	1	0.8%	4	2.2%	7	4.4%			
生理の処置	介助あり	2	1.7%	1	0.6%	5	3.1%			

## (2) 要介護認定に必要な 84 項目の回答傾向

### 1) 麻痺・関節制限関連

要介護度区分別の麻痺・拘縮関連項目の回答傾向については、中度と重度、および軽度と重度の間には、「麻痺\_その他」と「関節制限\_その他」を除き有意差が見られた。

軽度と中度の間に、有意差が見られたのは、「関節制限\_肘関節」のみであった。これらの結果は、麻痺拘縮関連項目の回答において、重度群に「あり」が高く、中度と重度との間には有意に重度化する傾向を示していた。

表 6-10 要介護度区分別麻痺・関節制限関連項目の回答傾向

		要介護度区分						P値		
		軽度		中度		重度		軽度⇔中度	中度⇔重度	軽度⇔重度
		N	%	N	%	N	%			
左上肢	1 なし	106	86.2%	142	77.2%	82	50.0%			
	2 あり	17	13.8%	42	22.8%	80	49.4%			**
右上肢	1 なし	105	85.4%	143	77.7%	82	50.0%			**
	2 あり	18	14.6%	41	22.3%	80	49.4%	**		**
左下肢	1 なし	47	38.2%	61	33.2%	34	21.0%			**
	2 あり	76	61.8%	123	66.8%	128	79.0%	*		**
右下肢	1 なし	47	38.2%	71	38.6%	35	21.6%			**
	2 あり	76	61.8%	113	61.4%	127	78.4%	**		**
その他	1 なし	104	84.6%	156	84.8%	128	79.0%			
	2 あり	19	15.4%	28	15.2%	34	21.0%			
肩関節	1 なし	96	78.0%	128	71.1%	71	45.8%		**	**
	2 あり	27	22.0%	52	28.9%	84	54.2%		**	**
肘関節	1 なし	117	95.1%	156	86.7%	92	59.4%	*	**	**
	2 あり	6	4.9%	24	13.3%	63	40.6%		**	**
股関節	1 なし	112	91.1%	154	85.6%	85	54.8%		**	**
	2 あり	11	8.9%	26	14.4%	70	45.2%		**	**
膝関節	1 なし	84	68.3%	108	60.0%	58	37.4%		**	**
	2 あり	39	31.7%	72	40.0%	97	62.6%		**	**
足関節	1 なし	113	91.9%	152	84.4%	90	58.1%		**	**
	2 あり	10	8.1%	28	15.6%	65	41.9%		**	**
その他	1 なし	101	82.1%	146	81.1%	116	74.8%			
	2 あり	22	17.9%	34	18.9%	39	25.2%			

\*\* P<0.01 \* P<0.05

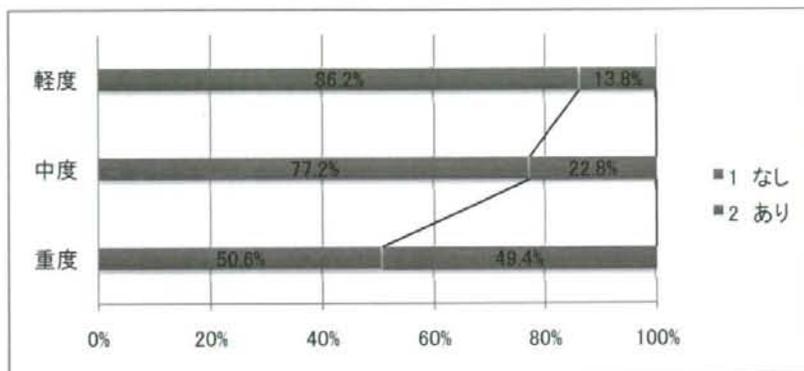


図 6-3 麻痺\_左上肢

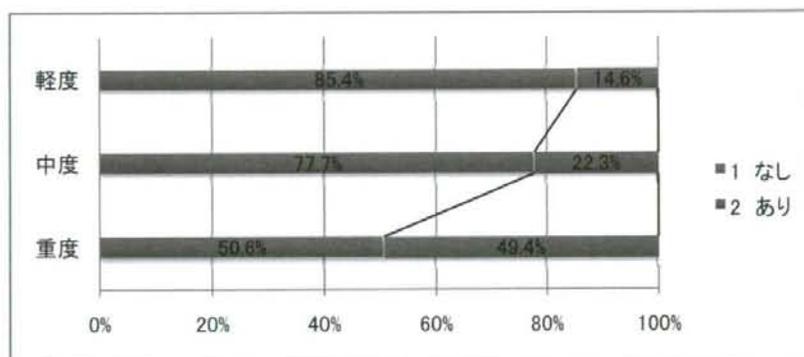


図 6-4 麻痺\_右上肢

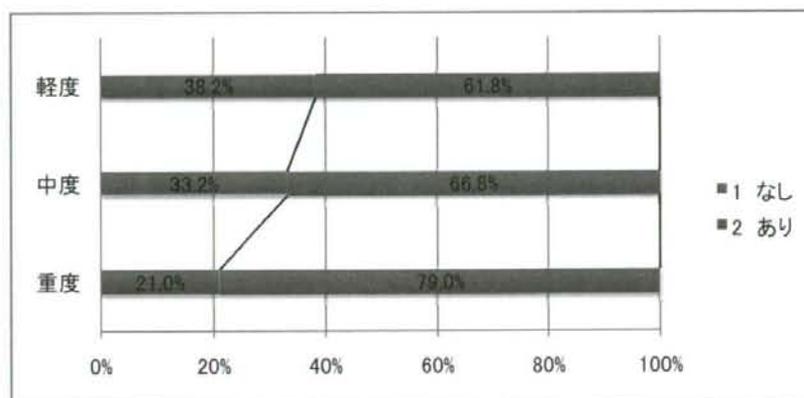


図 6-5 麻痺\_左下肢

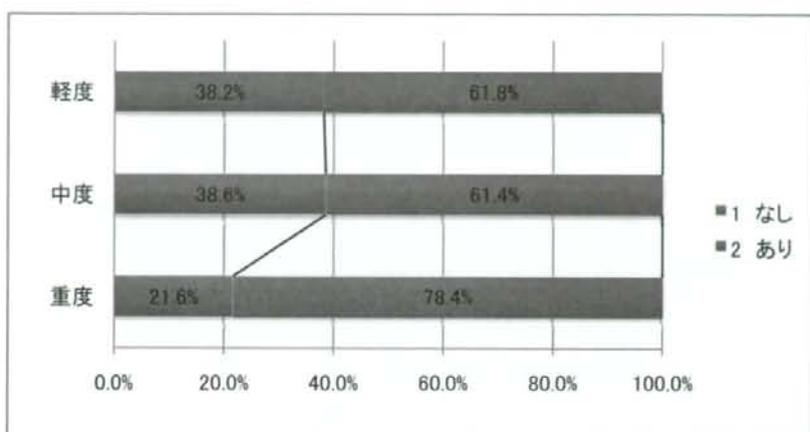


図 6-6 麻痺\_右下肢

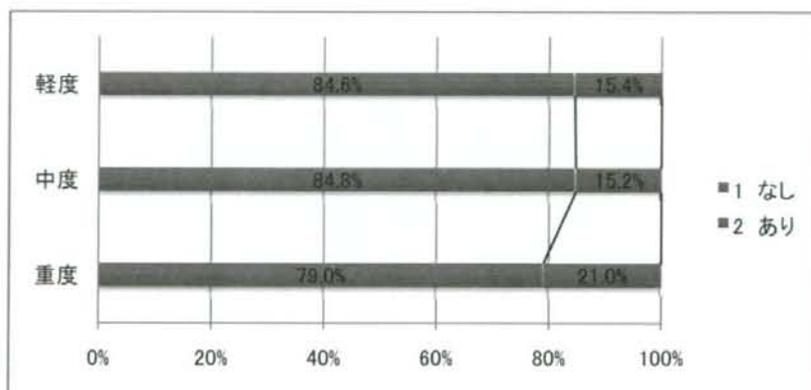


図 6-7 麻痺\_その他

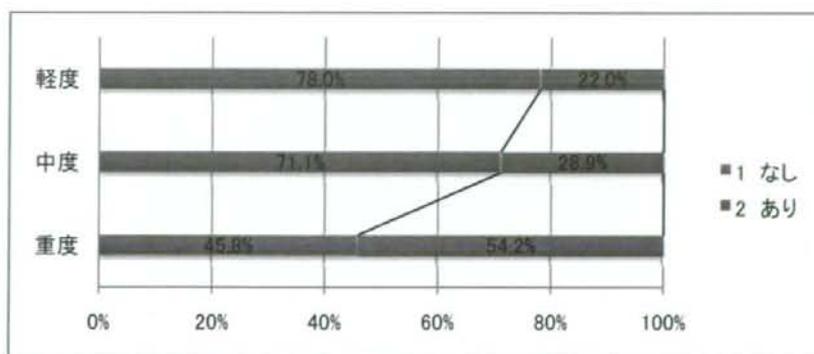


図 6-8 関節制限\_肩関節

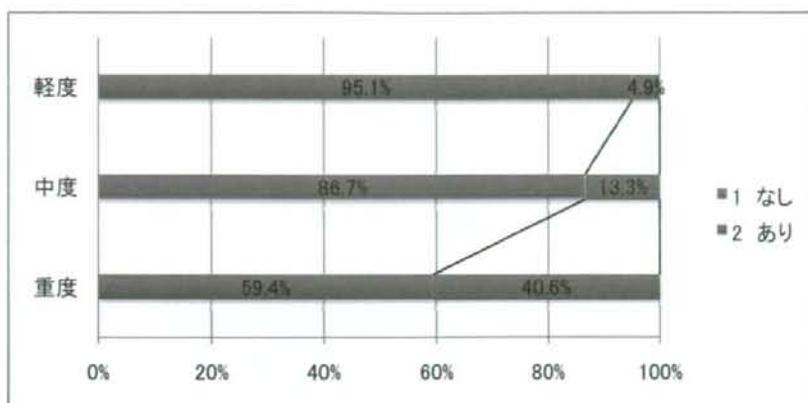


図 6-9 関節制限\_肘関節

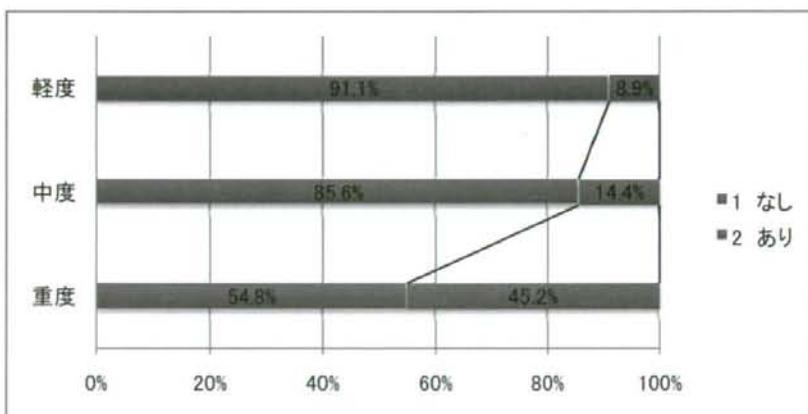


図 6-10 関節制限\_股関節

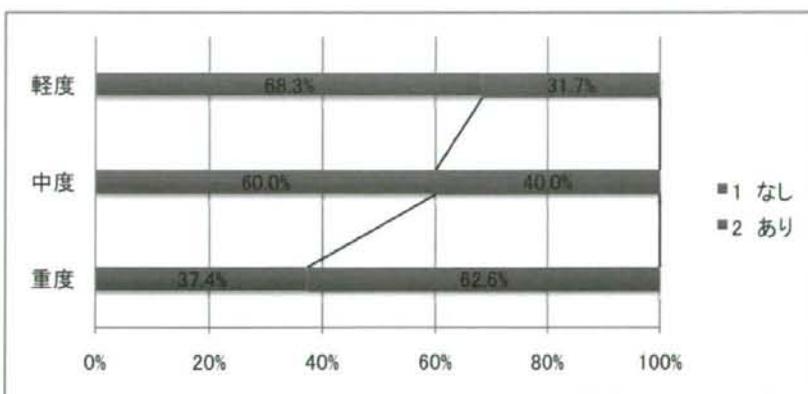


図 6-11 関節制限\_膝関節